

## 事業報告

### 大学における教育に関する事業

星 直子（帝京大学）、大島 弓子（豊橋創造大学）、小川 妙子（甲南女子大学）、恵美須文枝（亀田医療大学）

大学における教育に関する事業は、要望が多く継続してきました新任教員のための研修会、近い将来大学でリーダーシップをとっていただく方を対象とした研修会の2つを実施いたしました。以下2つの企画につきまして、実施順に概要を報告します。新任教員のための研修会の実際は、本協会HPセミナー報告からリンクして映像配信しておりますので、ご活用ください。

#### 事業テーマ1： 大学新任教員のための研修会2016

期 日：平成28年9月3日（土）  
会 場：大正大学  
参加者：47校 100名（新人以外の参加含）

#### I. プログラム

- 講演1, 大学改革の課題と看護人材の養成  
佐藤弘毅先生（目白大学学事顧問）
- 講演2, 私立大学とは何か 一私立大学の基礎知識—  
上杉道世先生（大正大学理事長特別補佐・質  
保証推進室長・客員教授）
- 講演3, 大学の教員になるということ  
夏目達也先生  
（名古屋大学高等教育研究センター教授）
- アフタートーク

#### II. 開催趣旨と講演内容

26年度から継続して企画してきた新任教員の講座は、大学教員として活動する上で、必要かつ個々の大学レベルで対応が難しい知識や情報を、セミナーとして試験的に企画・実施を始めたものです。看護系大学も、教育基本法に従った大学としての機能と、文部科学省からの指導に基づいた運営が期待されることは、

一般の大学と同じであるという原点に基づき、初めての試みとしてセミナーを始めてから、3回目となりました。大学における看護教育はますます重要性を増し、看護教育関係者、本協会の総会、理事会においても、しばしば教員確保、さらに確保した新任教員の教育について話題になってきました。幸いにも講師の先生方も、これまでの講演経験をふまえ、快くご協力いただきました。新設校が相次ぎ、3回の参加状況を加味しても、まだニーズへの対応は十分できていないものと考えます。

#### <講演1>

佐藤弘毅先生には、まず大学における医療人材養成の急拡大の現状について、大学教育の今日的課題を踏まえてご説明いただきました。18歳人口が減少する中、大学と学生定員が増え、増加大学の設置主体である私立大学の定数割れと赤字の現状、多様化と個性化をキーワードに、文部科学省答申の主たる方向性の意味について、概説していただきました。以上を踏まえ、特に増加が著しい看護系大学での課題を、学士課程で看護師を育てる意義、大卒看護職者への期待、教養教育と専門教育、大学の学びの付加価値などの視点から、お話いただきました。

#### <講演2>

上杉道世先生には、私立大学の歴史、制度、私学の存在意義などから始まり、大学関係法令の読み方、主

要部分の解説をしていただきました。また文部科学省等の組織や私学への支援、大学改革の現状なども説明していただきました。さらに、学生募集戦略、広報、キャリア教育についてもご説明いただき、私立大学で働くという視点を意識する重要性を確認できました。

### <講演3>

夏目達也先生には、大学教員職には、専門職としての社会的要請と、被雇用者としての大学組織の要請という2つの重要な要請に答えるという職務があるという導入に始まり、大学教員に求められるもの、教員養成の現状などの点から、大学教員になるということについてお話いただきました。学生の関心を継続させる授業展開として、名古屋大学高等教育研究センターのHP事例や、参加者を巻き込んだご講演は、体験的な理解を助けるものでした。

## Ⅲ. まとめ

参加者は例年同様、入職4年以下の助手・助教がほとんどでした。各講師とも時間いっぱい貴重なご講演をいただき、更に終了後も快くアフタートークに加わって下さり、参加者への質疑応答と歓談にご協力いただきました。

参加者の主な感想は、大学改革の方向性が理解できた、大学教育の現状、私立大学の特徴、大学教員としてなすべきことなどが学べ、大学で働く心構えができた、大学に関する法律関係の基礎的な知識が整理できたなどの意見があった。新人とともに参加して下さった教授からも、私学における新人教育の基礎的な事項を新人とともに確認でき、学内で伝達していきたいという、前向きな示唆をいただきました。アンケート結果では、東京以外での開催、同じ企画の継続を望むものも含め、ほぼ例年と同様好評でした。

### 事業テーマ2： 変革期にある大学における教育のリーダーシップ、教員の育ちについて考える

期 日：平成 28 年 10 月 2 日（日）

会 場：東京国際交流館プラザ平成

参加者：31 校、44 名

## Ⅰ. プログラム

### 基調講演

大学・学部のリーダーの責務と役割

—有効な大学組織作りに向けて—

小川哲生先生（いわき明星大学理事長、明星学苑副理事長、明星大学教授、前明星大学学長）

### パネルディスカッション

パネリスト／宮子あずさ先生（東京女子医科大学大学院非常勤講師）、松澤和正先生（帝京大学教授）、藤井哲也先生（聖隷クリストファー大学教授）、山中純瑚先生（甲南女子大学教授）

### グループディスカッション

午前中の基調講演、パネルディスカッションを踏まえ、グループで課題を設定し、討議。

討議経過の発表、パネリストの先生方のコメント

## Ⅱ. 開催趣旨と内容

社会の変化、大学改革の方針が打ち出される中、看護系大学の急増は、教員の量的確保ばかりでなく、教員の質保証の障害となっています。質・量ともに変化が求められる中、あらゆる職位に於いて、教員の教育に関する課題は存在し、解決が急務であると考えます。そのような状況の中、教員組織全体の意識・教育力に大きく影響を及ぼす管理、教員教育をする立場にある教員（近い将来その立場になる教員）が重要であると考え、この職位に焦点を当て、教育のリーダーシップ、教員の育ちをテーマにセミナーを企画しました。

### <基調講演>

小川哲生先生からは、まず、学校教育における教育活動の総体と管理から、点検・評価項目から見る管理の対象、大学管理者の法令上の責務について概説していただきました。これらを踏まえ、大学特に私立大学の財務状況、および入学者の動向などを、文部科学省の方針などの方向性、大学が抱える現在の課題、将来に起こるであろう課題を関連付けてお話いただきました。結論として、大学管理者に求められる資格と資質は、法令上の資格はもとより、教育研究に対する「理想・理念・使命感」を持ち続けることができる、周囲との「共感性」を持ちうること、自己の目的遂行のために、他者を手段として扱わないこと、学生の成長に誇りと喜びを持つこと、学生が出身校に誇りを持つように大学を発展させることなどを、豊かな視点から

時間が足りないほどお話いただきました。変革の現実だけでなく、教育者の原点を改めて確認できたご講演でした。

#### <パネルディスカッション>

パネリストの先生方には、ご経験に基づいた問題提起や実践例をお話いただきました。大学所属の先生方には、ご自分が出会ったリーダー、期待するリーダー像などについて教育活動を踏まえながら、お話いただきました。学生や教員の悩みをご自身のサイトで聞いている立場から、宮子先生からは大学教員の悩み、学生の悩みの現実とそれへの回答例をあげていただきました。それぞれのパネリストから多面的なご提案がありましたが、ディスカッションの時間が取れなかったのが残念でした。

#### <ワークショップ／発表・まとめ>

参加者をグルーピングし、基調講演とパネルディスカッションを踏まえ、話し合いをしていただきました。パネリストの先生方には、ワークショップと発表にもお付き合いいただきました。各グループとも活発な意見交換で、各大学で抱える悩みはほぼ類似しており、講演、パネリストの先生方の話題とも共通していました。発表は経験が浅い教員をいかに育てるかが主な話題でした。また私立大学ならではの特徵でもある、各大学組織の背景や運営の複雑さ・困難さなども取り上げられていました。

参加者の多くが指導的な役割をとる方々だったこともあり、熱心な意見交換は、各大学での悩みの深さ・多様さも反映しているものと考えます。

### Ⅲ. まとめ

参加者のほとんどが、在職 10 年以上の教授、学科長、学部長でした。反応は日頃問題と感じていた事柄の核心に迫ることができた、大学組織のリーダーの在り方を考えるきっかけになったという点に集約されました。グループディスカッションを行ったことは、各大学の情報交換や課題を共有するばかりではなく、共通の課題を抱える者同士のネットワークづくりにも役立つようでした。継続して企画を希望する声も出ていました。

2つの事業の企画意図は達成されたと考えています。副次的な効果としては、セミナー参加者が所属大学を離れ、他大学の教員と交流すること、意見交換することによって、ネットワークをつくり、自らの立場を客観視することにも役立つものであったと考えま

す。本委員会の企画ばかりでなく、本協会が企画するセミナー等は、加盟各大学への PR が課題であることは、理事会でもしばしば話題となるところです。せっかくの企画が活用されるよう、委員の側では PR 活動の工夫が必要であり、会員校からは具体的なご意見をいただけることを期待いたします。

大学における教育、教員の質の向上に関するものは多岐にわたり、対象とする教員の職位も、それぞれの対象者のニーズも多様です。両企画とも個人や個々の大学が対応し、努力するだけでは間に合わない現状を補う上でのほんの一部にすぎないという実感です。言いかえれば、何を企画しても必要性があり満足を得られる一方、量的にも質的にも、変化に適時に対応することは非常に困難です。一方アンケートに、「変革期にある」という意味がわからないというご意見がありました。教育者、管理者という参加者の立場を考えると、各企画でご講演いただいている先生方のお話を統合して見えてくるもの、提起された課題をさらに発展的に探索していただければ、どこへ情報を求めればよいか、何を考えることによって変化をとらえることが可能であるのかの答えがある様に思います。課題が山積し、対策が急務である現状において、本協会の一委員会として、「教育のための事業活動」をいかに焦点化し、効果的に展開していくかは今後も重要な課題であることを毎年実感いたしております。

以上今年度の 2つの企画について報告させていただきました。



©MPC

## 平成 28 年度日本私立看護系大学協会

# 学術研究および学術研究体制・研究助成に関する事業研究セミナー報告

塚本 康子（新潟医療福祉大学）、出野 慶子（東邦大学）  
前山 直美（神奈川歯科大学短期大学部）、奥田 泰子（四国大学）

学術研究および学術研究体制・研究助成に関する事業では、研究助成の事業とより良い研究成果を得るための研究セミナーを企画実施しました。その概要と結果を報告します。

開催日時：平成 28 年 9 月 17 日（土）

10：00～16：00

会 場：東邦大学看護学部

参加者：109 名



## プログラム

- 10：00～ 開会の挨拶
- 10：10～10：20 研究助成の募集および選考結果の報告
- 10：20～12：00 若手研究者研究助成の成果報告会
- 12：00～13：00 昼食
- 13：00～14：20 講演1「研究における統計解析のキーポイント」  
講師：高木 廣文（共立女子大学）
- 14：20～14：30 休憩
- 14：30～15：50 講演2「看護研究における統計解析」  
講師：八重 ゆかり  
（聖路加国際大学）
- 15：50～ 閉会の挨拶

## 平成 28 年度研究助成事業選考結果報告概要

（研究助成事業担当理事 塚本康子）

「看護学研究奨励賞（10万円）」は2件の応募がありました。該当者はありませんでした。「若手研究者研究助成（30万円）」は18件の応募中、10件が採択されました。「国際学会発表助成（20万円）」は9件の応募があり、4件が採択となりました。今年度は合計29件応募があり、14件が採択されました。なお、今後の研究への参考にしていただくために、看護学研究奨励賞と国際学会発表助成で選に漏れた応募者、若手研究者研究助成においては応募者全員に審査委員からのコメントをお送りしました。

## 第一部 平成 24・25 年度若手研究者研究助成の成果報告会

### 1. 看護師が獲得している Employability の内容と影響要因

福井 純子（北海道医療大学）

研究目的は、看護師が柔軟に働き続ける力としての Employability に焦点をあて、その内容と影響要因をあきらかにすることである。臨床経験10年以上の看護師12名を対象に半構成的面接を実施し、質的記述

的研究デザインを用いて質的帰納的に分析した結果、Employability の内容7カテゴリーと影響要因7カテゴリーが抽出された。

### 2. 目盛り付きゴム管駆血帯の有用性についての検討—既存の留め金付きゴム管駆血帯との比較—

佐々木 新介（関西福祉大学）

研究目的は、目盛り付き駆血帯が看護学生でも適切かつ容易に理解できる方法の有用性を検証することである。基礎看護技術教育が終了した看護学生 40 名を対象にして、主観的指標として使用感を聴取して記述統計処理を行い、客観的指標として駆血圧測定を実施し検定処理を行った。これらより、初めて駆血圧を使用する看護学生でもばらつきなく、かつ容易に取り扱うことができることが示された。

### 3. 24 時間対応の訪問看護ステーションにおける ICT (Information Communication Technology) を用いた在宅支援に関する基礎的研究

横山 浩誉(大阪医科大学)

研究目的は、24 時間体制の在宅ケアを支えるためのツールとして ICT による介入が効果的と考え、ICT (Information Communication Technology) 介入研究のための基礎的研究としてバーンアウト等を中心としたアンケート調査を実施し実態をあきらかにすることである。業務実態やマストラック・バーンアウト測定尺度 (MBI) の質問や ICT 環境などの調査結果から、「看護職の充足感と脱人格化」「訪問に関しての迷いと情緒的消耗感」に有意差がみられた。

### 4. 副作用による化学療法の休薬を経験した進行再発大腸がん患者のレジリエンスの様相

鈴木 香苗(日本赤十字広島看護大学)

研究目的は、化学療法の休薬を経験した切除不可能な進行再発大腸がん患者のレジリエンスの様相を明らかにすることである。化学療法の休薬経験がある 6 名を対象に半構造化面接を実施し質的帰納的に分析を

行った結果、10 カテゴリー 45 サブカテゴリーが抽出された。どのような状況でも医療者は患者が肯定的感覚を高めることを支援する必要性が示唆された。

### 5. 月経前症候群 (PMS) / 月経前不快気分障害 (PMDD) の重症度評価による女性労働者のメンタルヘルス不全予防プログラム開発のための基礎的研究

濱西 誠司(関西福祉大学)

研究目的は、女性看護師のストレス反応に対する月経前症候群 (PMS) の影響を相対的に評価することで、PMS 症状の改善による職業性ストレス対策の可能性を検討することである。女性看護師 200 名を対象に自記式調査紙を配布・回収した。データ分析の結果、PMS 症状の改善は女性労働者の仕事の負担感を軽減するとともに、心身のストレス反応の予防・改善に有効である可能性があることが示唆された。

### 6. 幼児期に小児がんを経験した子どもの学校生活適応への親の関わりと看護支援の検討

山地 亜希(大阪医科大学)

研究目的は、幼少期に小児がんを経験した子どもが学校生活に適応するための親の関わりを明らかにし、それに対する看護支援を検討することである。小学校入学までに外来治療を含む全ての小児がん治療を終了した小学校低学年の子供の母親 3 名を対象に半構造的面接を実施した。質的帰納的に分析をした結果、4 カテゴリー 14 サブカテゴリーが抽出され、必要な時に援助が受けられるように調整していくことが重要であることが示唆された。

## 第二部 看護研究の目的別アプローチ

「看護研究の目的別アプローチ」をテーマとし、2 つの講演が行われた。

### 講演 1 「研究における統計解析のキーポイント」

講師:高木 廣文(共立女子大学 教授)

講演内容は、統計学をどうして使うのか? 統計学の特徴、正規分布の仮説と中心極限定理、統計学と因果関係、検定と標本数の関係などであり、「統計学は意志決定の道具である」ことをキーポイントとして話された。



### 講演 2 「看護研究における統計解析」

講師:八重 ゆかり(聖路加国際大学 准教授)

講演内容は、お手本となるような 4 つの看護関連研究を材料として、無作為化クロスオーバー試験・非ランダム化比較試験・後向きコホート研究・アンケート調査といった研究デザインと統計解析手法の使い方を具体的にわかりやすく説明された。



最後に出野慶子理事が閉会の挨拶をし、今年度の研究セミナーは盛況のうちに終了した。

### アンケート結果概要

85 名にアンケートを配布し、75 名（回収率 88.2%）から回答を得た。プログラム満足度（4 段階評価）は、研究成果報告については「とても満足」9.3%、「満足」44.0%であった。講演 1 は、「とても満足」34.7%。「満足」52.0%、講演 2 は、「とても満足」52.0%、「満足」

34.7% で、講演 1・2 ともに「とても満足」「満足」が約 9 割を占めた。自由記述では、具体的でわかりやすく、今後活用できる有意義な内容であった、という意見が多かった。

全体として「とても満足」30.0%、「満足」52.0%であり、8 割以上の参加者が満足していた。



## 平成 29 年度研究助成事業研究助成応募受付中

本協会では、加盟校における看護学研究者の育成と、さらなる向上発展を奨励するため、以下の 3 つの研究助成事業を行っています。ご応募お待ちしております。

### 1 看護学研究奨励賞

**対象** 加盟校の教員で、前年度に原著論文などを、国際看護雑誌、学術団体登録誌、所属大学紀要などに発表し、看護学研究に貢献した者

**表彰** 賞状および副賞（10 万円）の授与

### 2 若手研究者研究助成

**対象** 加盟校の教員で、看護学研究に関し優れた研究を行っている若手研究者（申請時、満 45 歳以下の講師、助教または研究者番号を有する助手）

**研究助成** 1 件 30 万円

研究助成期間：最大 2 年間

※他機関から同一テーマで助成が決定している場合は対象となりません。

### 3 国際学会発表助成

**対象** 加盟校の教員で、当該年の 7 月から翌年の 3 月の間に開催される国際学会に発表予定の者

**発表助成** 1 件 20 万円

発表論文の要旨に、他機関からの研究助成の有無についてご記入いただきます。また、口演・示説の別、採択通知証や学会参加証の提出が必要となります。

なお、より多くの方に助成の機会を得ていただくため、応募は一人一件とし、5 年以内に一度選出された方のご応募はご遠慮ください。

**応募〆切** 5 月 15 日（当日消印有効）

募集要項および応募書式は、本協会のホームページ（<http://www.spcnj.jp/>）からダウンロードできます。

## 大学運営・経営に関する事業

# I 研修会「私立大学等改革総合支援事業の留意点と会計検査院の対応等」

日 時：平成 28 年 10 月 15 日 13:00～15:00  
 場 所：聖路加国際大学 大村進・美枝子記念聖路加臨床学術センター CCA3302  
 担 当：林 優子（大阪医科大学）、長澤 正志（淑徳大学）

## 開催主旨

「私立学校とは」というメインテーマで、学部長・学科長等教学責任者に対し私学人として知っていなければならない関係法令等の研修会及び補助金獲得や大学運営・経営に関する研修会を継続的に開催している。

## プログラム

### 挨拶

一般社団法人日本私立看護系大学協会会長  
井部 俊子

### 講師紹介

渡辺 明良（聖路加国際大学）

### 講演

日本私立学校振興・共済事業団  
助成部補助金課長 菊池 裕明 氏

### 質疑応答

## 講演内容

### 1. 私立大学等を取り巻く環境

- ・2020 年からの 18 歳人口の減少に対し進学率の伸びは期待できない。
- ・2016 年以降の出生数を注目すると 30 年後の 18 歳人口は 40 万人減少すると見込まれる。
- ・2016 年度では、私立大学の 44.5%（2015 年度 43.2%）は定員割れとなっている。また、入学定員が半分以下の大学は 13 校（2015 年度 13 校）となっている。
- ・2016 年度では、私立短期大学の 66.9%（2015 年度 61.0%）は定員割れとなっている。また、入学定員が半分以下の大学は 11 校（2015 年度 9 校）となっている。
- ・2014 年度では、私立大学の 37.0%（2013 年度 36.4%）は帰属収支差額比率がマイナスとなっている。また、帰属収支差額比率のマイナスが 20%

以上となっている大学は 88 校（2013 年度 83 校）となっている。

- ・2014 年度では、私立短期大学の 56.2%（2013 年度 50.4%）は帰属収支差額比率がマイナスとなっている。また、帰属収支差額比率のマイナスが 20%以上となっている大学は 86 校（2013 年度 83 校）となっている。
- ・世界的に知識基盤社会を迎える中で、国の発展基盤として高等教育を重視することが世界的潮流。我が国が世界に伍して発展していくためには、「大学力」を国力そのものとして重視することが不可欠。

### 2. 私立大学等経常費補助金の概要

#### （1）一般補助

一般補助は、「員数」×「単価」×「補助率」×「増減率」×「圧縮率」で計算され、補助額は「増減率」が大きく影響する。

#### （2）特別補助

「地方に貢献する大学等への支援」、「私立大学研究ブランディング事業」が新たに加わった。

#### （3）私立大学等改革総合支援事業

各調査項目は、「最高得点獲得校数／申請校数 or 選定校数」のパーセンテージ等により、配転の減少、項目の見直しや削除が行われている。

各調査項目の解説（省略）

### 3. 会計検査院の検査等

#### （1）検査対象と検査の流れ

検査対象年度は、原則過去 5 か年で指定されているが、実際には主に前年度と前々年度の 2 か年を対象として行われている。検査対象範囲は、学校法人全体で指定されるが、実際には、検査の対象となる大学等を指定して行われる。検査の流れは、平成 28 年検査では、平成 27 年 11 月から平成 28 年 5 月まで検査が行われ、平成 28 年 11 月に結果を「平成 27 年度決算報告」として内閣に提出される。

過大交付が認められると「不当事項」として同報告に掲載される。

(2) 私立大学等改革総合支援事業での注意事項  
根拠資料が未整備の大学が散見される。必ず再点検を行い、チェックリストを用いて根拠資料の組織的な整備を行うこと。

要件の誤った解釈、要件の見落としに注意すること。判断がつかない場合は事業団に問い合わせをすること。「統合版」を用いて調査項目について関係部署と共通認識をもつこと。

(3) 最近の検査の動向

- ・ 1 法人につき担当官 5 人で調査 (2～3 日)
- ・ 現地調査後も追加調査有り

- ・ 「Q&A」に注意
- ・ 特別補助、改革総合支援事業をよく見ている
- ・ 補助対象要件などの改正を狙った「テーマ」検査
- (4) 申請の誤りの要因と対応策

申請の誤りの主な原因は、申請部署と関係部署との連携不足と認識の違い、関係部署担当者の理解不足とチェック体制の不備である。対応策は、申請時の要件、数値の十分な確認と関係部署との情報共有が重要である。

補助金獲得には、「役員」、「教員」、「職員」の三位一体による、「方針」、「体制」、「協力」が重要である。

## Ⅱ データベース「看護教育研究経費に関する実態調査」(Q-JPNCS) の構築

今年度から始まりました日本私立看護系大学協会のデータベース「看護教育研究経費に関する実態調査」(Q-JPNCS) の集計が完了いたしました。集計結果につきましては協会 HP の会員専用ページからダウンロードすることができますので、貴学の現状の把握、学内での折衝等にご活用ください。協会としましては、補助金の申請等公的な助成拡大のための資料として活用させてい

ただく予定です。

現在は単純比較の解析となっておりますが、地区別、年度別の解析ができるシステムも現在構築中です。本調査は、今後も毎年度行い、データを蓄積していく予定です。今後ともご協力のほど、よろしくお願いたします。



©MPC

## 「関係機関との提携等に関する社会的事業」活動報告

○大西香代子（園田学園女子大学）、山本真千子（茨城キリスト教大学）、清水 房枝（京都光華女子大学）

本事業は、日本私立看護系大学協会の発展に向けて、協会外部の諸機関との協力・支援及び必要な提携等を企画・実践することをねらいとして設けられ、様々な活動がなされてきました。最近では看護系大学が激増し、多くの加盟校では受験生確保と連動した国家試験の高い合格率担保の対策に力を注がざるを得ないといった課題が浮上しております。このため、国家試験の基本的なあり方に対する課題や要望等、厚生労働省との連携が重要となってまいりました。

そこで本事業では、平成 15 年度から保健師助産師国家試験の不適切問題の検討、同試験問題の CD 化と各校配布、国家試験分析と問題作成のこつや心得といった研修会等を開催してきました。平成 23 年度からは、国家試験の基本的なあり方についての研修を重ね、平成 26 年度から 2 年にわたり、看護師国家試験を看護専門職のコアコンピテンシーに基づいた内容・水準で見直し、認知領域に限定された評価から情意領域・精神運動領域への拡大を検討するための研修会を開催してきました。

今年度は、国家試験について改めて考えるために「看護師国家試験を考える」として 2 部構成の研修会を、平成 28 年 10 月 23 日に東京ガーデンパレスにて行いました。日曜の開催で、109 名の参加がありました。

第 1 部は、厚生労働省医政局看護課、課長補佐の猿渡央子氏による「看護師国家試験の現状と課題」として、合格者・合格率の推移など看護師国家試験の概要、非選択数式計算問題の導入や視覚素材の公募などの改善策のほか、来年から「長い状況文を伏した単問の状況設定問題を導入」することが話されました。また、視覚素材だけでもいいので試験問題への公募に協力してほしいとの依頼もありました。講演後の質疑応答では、受験に備えて宿泊施設を確保する必要があるのでは、試験月日や試験会場をもっと早く公表してほしいなどの意見が出されました。

第 2 部は、札幌医科大学の今野美紀教授による「看護師国家試験の『対策』～札幌医科大学の事例報告～」でした。いわゆる「国家試験対策」は何も行っていないにもかかわらず、毎年 100% の合格を達成している背景には、「自校の教育をしっかりと整えること」こそ

国家試験対策になるとの信念があるようです。教育の特徴として、1 年の基礎看護学から、看護専任教員の指導のもと、事前学習課題及び事後学習課題を課し、自ら学ぶ姿勢を育てていること、学生の長所を認めつつ、さらによくするためのアドバイスを加えていくこと、看護過程の演習ではよくできている学生にプレゼンテーションさせ、学生同士での気づきを大切にしていることなどが話されました。学生達も、自分の代で 100% を途切れさせるわけにはいかない、とのプレッシャーを感じて勉強しているとのことでした。

今回の研修会についてのアンケートでは、満足度（満足・やや満足）がそれぞれ 77%、68% と従来の結果に比べ、やや低い数字でした。第 1 部の講演に対しては、「今後の方向性がわかってよかった」という意見があった一方で、「概ね知っている内容だった」との不満も寄せられました。また、質問に対しても、回答してよいかどうかを持ち帰って検討すると保留になったものもあり、後日回答をいただくことになっています。第 2 部については、「看護教育のあるべき姿を教えてもらった」、「学習環境を整えていくことの大切さがわかった」との意見と、「基礎学力が異なる」、「恵まれた環境」で「参考にならない」との不満の声や「ダメ私学の合格 100% への道を聞きたい」との意見もありました。

確かに、公立は恵まれた条件にあるでしょうが、学生自身が自ら学ぶ姿勢を持たなければ教育効果は上がらないし、国家試験はその結果としてついてくる、という基本を振り返る機会となる講演でした。アンケートの結果から、私立看護系大学の抱える葛藤がわかりましたので、今後の活動の参考にさせていただきます。

## 理事会報告

### 平成 28 年度 第 3 回定例理事会

日 時：平成 28 年 11 月 25 日（金）13：00～16：15  
場 所：日本私立看護系大学協会 事務所  
出席者：18 名（総数 22 名）

#### 報告事項

1. 平成 28 年度事業活動中間報告・予算執行状況について報告した。
2. 中期決算及び事務所移転に係る会計について報告した。

#### 審議事項

1. 定款と細則等の整備について、審議し次回臨時理事会において継続審議とする。
2. 理事および監事等選出内規の変更について、現行の理事の選出内規は度々加筆されており、加盟校からは分かりづらい。理事にとっても選挙を経て選出される方が良い。プロセスに改善の余地があると確認されている。現在は会員校 170 校と規模が大きくなり、透明性を高めるためにも選挙は妥当との意見が出され、臨時理事会の検討課題とした。
3. 各委員会が開催する研修体系について、開催地の利便性を考慮しつつ、加盟校の意識の向上・能力形成を促すよう、平成 29 年度の研修を企画することとする。
4. 平成 28 年度広報活動について、当協会の広報の媒体を、ホームページ・年報・会報に集約し平成 29 年度は、研修事業等の様々なお知らせをメールにて発信し周知に努めることとする。
5. 平成 29 年度社員総会の講演について検討した。

### 平成 28 年度 臨時理事会

日 時：平成 28 年 1 月 22 日（日）13：00～16：50  
場 所：日本私立看護系大学協会 事務所  
出席者：20 名（総数 22 名）

#### 報告事項

1. 平成 29 年度社員総会の講演について報告した。
2. 広報委員会より、研修会と事業活動の報告書について、報告書は冊子とせず、ホームページで報告し、さらに研修会の動画配信を積極的に進めていくことを報告した。

#### 審議事項

1. 現行の役員選出内規について、整理と確認をし、平成 28 年第 4 回定例理事会にて継続審議することとし、新しい役員選出規程についても審議し、併せて継続審議とする。
2. ホームページ改修について、改修を進めることを確認し、ホームページ運用については広報委員会が責任を持ち、事務局が運

用することとした。現在、会員専用ページで閲覧できる教員名簿は個人情報保護の観点から掲載しないこととする。

### 平成 28 年度 第 4 回定例理事会

日 時：平成 29 年 3 月 12 日（日）13：00～16：00  
場 所：日本私立看護系大学協会 事務所  
出席者：15 名（総数 22 名）

#### 審議事項

1. 役員候補者選出について 一般社団法人日本私立看護系大学協会役員候補者選出規程及び一般社団法人日本私立看護系大学協会選挙管理規程について審議し、平成 29 年度第 1 回理事会にて継続審議とする。
2. 以下の諸規程について審議した。
  - ①一般社団法人日本私立看護系大学協会理事及び監事等の選出内規
  - ②一般社団法人日本私立看護系大学協会理事会運営規程
  - ③一般社団法人日本私立看護系大学協会情報公開規程
  - ④一般社団法人日本私立看護系大学協会個人情報の保護に関する規程
  - ⑤一般社団法人日本私立看護系大学協会個人情報保護に関して（HP 掲載用）
  - ⑥一般社団法人日本私立看護系大学協会特定個人情報規程
  - ⑦一般社団法人日本私立看護系大学協会基金取扱規程
  - ⑧一般社団法人日本私立看護系大学協会研究助成事業規程施行細則について
3. 定款の変更について審議し、平成 29 年度第 1 回定例理事会において継続審議とする。
4. 平成 29 年度事業活動計画と予算（案）について、大学における教育に関する事業、大学における研究に関する事業、教育・学術および文化の国際交流事業、大学運営・経営に関する事業、関係機関との提携等に関する社会的事業、会報・出版等の広報に関する事業より平成 29 年度活動計画が説明され予算と共に承認した。
5. 平成 29 年度一般社団法人日本私立看護系大学協会予算について承認した。
6. 平成 29 年度一般社団法人日本私立看護系大学協会組織体制と平成 29 年度役員選出について審議し、平成 29 年度第 1 回定例理事会において継続審議とする。

#### 報告事項

1. 平成 29 年度研究助成募集要項について報告した。
2. 平成 28 年度一般社団法人日本私立看護系大学協会決算（中間報告）について報告した。
3. 平成 28 年度会長表彰について報告した。
4. 事務局選任職員退職金規定について、修正と報告をした。
5. 40 周年記念誌発刊について報告した。

# 事務局からのお知らせ

## 平成 29 年度 総会

日 時：平成 29 年 7 月 14 日（金） 10：00～14：30  
 場 所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）  
 議 題：（予定）

1. 審議事項

第 1 号議案

平成 28 年度事業活動及び収支決算・監査報告に関する件

第 2 号議案

役員選任に関する件

第 3 号議案

定款変更に関する件

2. 報告事項

第 1 号報告

平成 29 年度事業活動計画及び予算案に関する件

総会講演会

- ・テーマ：「入学後の伸びる力を見極める  
 一看護系大学の学生選抜はどうあるべきかー」
- ・講師：アリソン ビール  
 （オックスフォード大学 日本事務所代表）

## 平成 29 年度 セミナー・講演会のお知らせ

大学における教育に関する事業

○大学新任教員のための研修会 2017

- ・日 時：平成 29 年 8 月 6 日（日）
  - ・会 場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）
  - 講演 1 看護系私立大学とは（仮）  
 私学の特性（組織、経営、学生の特性）、私学の理念と教育課程  
 講師 井部俊子（本協会代表理事）
  - 講演 2 看護系大学の教員になるとは（仮）  
 教員に求められる資質、効果的な教育方法について  
 講師 小山真理子（本協会理事）
- グループワーク

学術研究および学術研究体制に関する事業

○学術研究及び研究体制に関する講演会

- ・日 時：平成 29 年 9 月 2 日（土）10：00～16：00
- ・会 場：東邦大学看護学部
- ・テーマ：看護研究の目的別アプローチ

「混合研究法への誘い」

講師 亀井 智子（聖路加国際大学 教授）

※平成 25・26 年度若手研究者研究助成者による成果報告会を行います。

大学運営・経営に関する事業

○教職員を対象とした研修会

- ・日 時：平成 29 年 11 月 18 日（土）予定
- ・場 所：未定
- ・内 容：「3 ポリシー法制化の対応」（仮）

大学における教育に関する事業

○研修会「学士力の向上を目指して教育の質を上げよう！」（仮）

- ・日 時：平成 29 年 11 月 26 日（日）
- ・場 所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

講演 1 学士力育成の全般、初年次教育の工夫、学力や心理的な問題をかかえる学生への対処を含めて（仮）

講師 菊地滋夫（明星大学国際コミュニケーション学科教授、学長補佐、明星教育センター長）

講演 2 指導困難な学生の実情と今後の教育支援の方向（仮）

講師 池松裕子（名古屋大学大学院医学系研究科）

グループワーク

## 平成 29 年度開設私立大学看護系学部・学科一覧

大学名	学部・学科	定員	区分
一宮研伸大学	看護学部看護学科	80	大学新設
いわき明星大学	看護学部看護学科	80	学部新設
岩手医科大学	看護学部看護学科	90	学部新設
岩手保健医療大学	看護学部看護学科	80	大学新設
秀明大学	看護学部看護学科	80	学部新設
聖カタリナ大学	人間健康福祉学部看護学科	80	学科新設
東京情報大学	看護学部看護学科	100	学部新設
東邦大学	健康科学部看護学科	60	学部新設
人間環境大学	松山看護学部看護学科	80	学部新設
福井医療大学	保健医療学部看護学科	60	大学新設
福岡看護大学	看護学部看護学科	100	大学新設

## 加盟校の取り組み

## 本学における 3 つの取り組み

前山 直美、原田美枝子（神奈川歯科大学短期大学部看護学科）

神奈川歯科大学短期大学部看護学科は、横須賀共済病院看護専門学校から 100 年の歴史を引き継ぐ形で平成 19 年 4 月に湘南短期大学看護学科として誕生しました。平成 25 年 4 月、神奈川歯科大学短期大学部看護学科と改め、今年度で 10 年目を迎えました。

大学近隣にある三笠公園からは、美しい海と東京湾唯一の無人島である猿島が望め、また横須賀米海軍施設が隣接しており、人・食事・風景と国際色豊かな環境の中に本学があります。本学の取り組みをいくつかご紹介いたします。

### 1. 地域住民との連携を重視した取り組み（ジャガランダフェスティバル）

本学のキャンパス内に、世界三大花木といわれるジャガランダの高木があります。本来、ジャガランダは中南米原産の高木であり、本学のジャガランダは日本最北限生息地と言われており、年間 8000 余名の見学者が訪れます。キャンパスカラーであるフェルメールブルーの由来は、ジャガランダの花弁の色が、画家フェルメールの「真珠の耳飾りの少女」に描かれている青いターバンに類似していることからつけられました。

開花を迎える 6 月 3 週目には「ジャガランダフェスティバル」を開催しています。フェスティバルには横須賀市民はもちろん、遠方からも多数の方々が訪れています。今年は約 3600 人の方々が満開のジャガランダを一目見ようと来校しました。フェスティバルでは、

看護学科・歯科衛生学科・歯学部の学科の隔たりなく、全教職員が一丸となり参加します。看護学科では、健康チェックや高齢者体験、妊婦体験、沐浴体験、白衣の試着等、老若男女問わず楽しめる企画を、歯学部、歯科衛生学科は無料歯科健診・身体診断など催しました。ジャガランダフェスティバルは地域住民の方々との連携を大切に行われる大イベントであり、また地域活性化の一役を担っています。

### 2. 国際的視野を養う海外研修とベトナム留学生受け入れの実現

国際性豊かな視野を持ち、世界とのコミュニケーションをはかれる人材を育成するために、英語教育はじめ、ヨーロッパとアジア諸国の文化を学び、異文化に対する見識を養うことと英語会話力を発展させることを目標にした科目「海外事情Ⅰ＜欧米＞」と「海外事情Ⅱ＜アジア＞」は、非常に人気の高い選択科目です。夏期休暇中に実施される「海外事情Ⅱ＜アジア＞」は昨年まで研修先が台湾や韓国でしたが、本年度は国際貢献の一環としてベトナム国立バクマイ病院付属看護短期大学からの留学生の受け入れが実現したこともあり、研修先はベトナムになりました。事前にベトナムの文化、歴史、社会事情を学習し、簡単な日常会話程度のベトナム語を学び、看護学科・歯科衛生学科の学生 18 名が参加しました。ベトナムの医療を代表するバクマイ病院の見学や学生との交流が活発に行われ中身の濃い時間を共有できました。冬期休暇



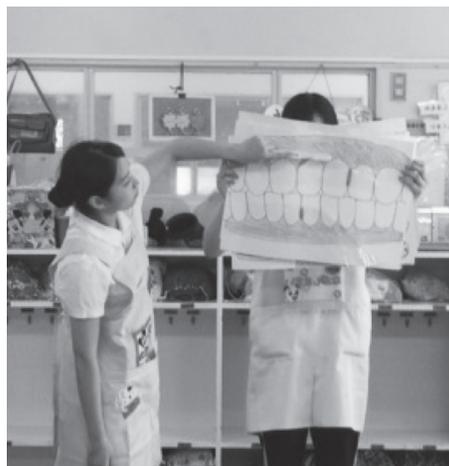
シンボルツリーのジャガランダ



フェルメールブルー色のジャガランダの花



ベトナム留学生入学式



歯磨き指導



海外事情 I &lt;パリ研修&gt;



園児による歯磨きの演習

中に実施される「海外事情 I <欧米>」の訪問国はフランス（パリ）で、看護学科・歯科衛生学科の学生 27 名が参加しました。現地での医療事情や看護事情・病院見学・生活・文化に触れながら体験でき、国際的視野を養うきっかけになっています。

### 3. 健康教育を取り入れた保育園実習

本学の小児看護学実習は 3 日間保育園実習を行っています。今までの保育園実習は見学実習が主でしたが、平成 27 年度から健康教育に関する集団指導プログラムに変更しました（以下、健康教育）。学生は実習メンバーと共に幼児の健康教育について文献学習と保育園に事前訪問し、子供の様子や実際行われている健康

教育や課題について情報収集し「テーマ・目標・方法」が決め、シナリオ作成や媒体作成、リハーサルへと準備を進め、実習最終日に 10 分～15 分程度の健康教育を実施します。健康教育のテーマは、「手洗い・うがいの仕方」「歯磨きの仕方」「身体を丈夫にするために」「熱中症予防」「健康なうちの話」等で、園児の好きなキャラクターを登場させた紙芝居に、興味をもって聞いてくれます。

「手洗い・うがいの仕方」は CD の曲を替え歌にして、また「歯磨きの仕方」は歯の模型と歯ブラシを用い、毎日の生活に取り入れられるようデモンストレーションを実施します。これらの健康教育の実習は、今でも保育園で継続的に行われています。

加盟校の取り組み

「橘薫の一生」を活用した教育

河原 宣子（京都橘大学看護学部）

「橘薫の一生」は、京都橘大学看護学部の創作事例教材で、「橘薫」は京都橘大学看護学部に入学生涯看護職として活躍する架空の女性主人公である。教材は、①「橘薫」の家族史、②ジェノグラム、③青年期の学習目標と Key Words、④青年期のエピソード、⑤成人前期～中期の学習目標と Key Words、⑥小児期の学習目標と Key Words、⑦橘薫と子どもに関する成人前期～中期および小児期のエピソード、⑧成熟期の学習目標と Key Words、⑨成熟期のエピソード、⑩老年期の学習目標と Key Words、⑪老年期のエピソードという構成になっており、A4 サイズ 50 ページの冊子である。また、京都橘大学漫画研究会とコラボレーションを行い、エピソード部分を漫画で可視化した。

本学のカリキュラムは、人の誕生から死までを連続して理解する「ライフサイクル」に着目して構成したことが特徴の一つとなっている。この事例を教材として使用するの、主として1回生授業科目の「ライフサイクル論」や「ヘルスプロモーション」、「プライマリケア論」である。これらは、《異文化を理解し人に

よりそう看護を実践できる能力を育成する》という教育目標の＜対象の理解＞＜対象と環境の相互作用を理解＞に配置されている科目となっている。これら科目のシラバスは事例と対応させ、基本的に、青年期→成人前期～中期および小児期→成熟期→老年期における内容を学習目標としながら進行する。なお、青年期を授業前半に設定したのは、「自らの心身と生活に関心が持てる」という1回生の到達目標を鑑みたからである。各期の Key Words は学生自身が自己学習ノートを作成できるように設定したもので、4年間を通して学ぶべき内容を網羅した。授業は、それぞれのライフステージにおいて専門性を有する教員がオムニバス形式で担当していく。各教員の授業資料は共同で閲覧できる場所に設置してあり、また、教員同士は自由に授業を聴講できる環境にしている。そのため、自分以外の教員がどのような授業展開をしているか必要に応じて把握することが可能である。

そもそも、「橘薫の一生」の作成は、本学のカリキュラムを構築する上で、なくてはならない存在であった。議論の中心になったと言っても過言ではない。



本学のカリキュラムは、基礎科目・専門支持科目・専門科目の枠を取り払い、教育目標と回生ごとの到達目標、そして科目群を対応させたマトリックス型カリキュラムである。「人によりそう看護」「異文化の理解」を基軸に、ライフステージ別科目ではない、ライフサイクルを基盤とした新しいスタイルの科目を複数設置し、教授する内容を精選した。そして、専門領域を生かしながら領域を越えたオムニバス授業を活用することとした。このことにより、授業時間数や単位数を抑え、主体的に学習する時間の確保に努め、学生も教員も、常にカリキュラム全体を理解しながら学び、教授できる環境を整えた。

そして、「橘薫の一生」の作成は、教員がカリキュラムの持つ意味と意義を理解し、目前の学生により適した教育を提供できるような方法論を話し合うことにもつながった。単に、事例を作成するだけでなく、何をいつ、どこで、どのように学生に学んでもらうの

かという教育内容をも議論したのである。それぞれのライフステージにおいて、学習すべき内容を抽出し、ワーキングメンバーが専門領域を超えて「何を学生に伝えたいか」を徹底的に話し合った。

さらに、「橘薫の一生」のスピノフ事例がいくつも創作されている。例えば、「橘薫、骨折する！一薫、40歳の夏一」や、橘薫の家族や親戚などを登場させ、2回生以上の複数の科目で統合的な事例検討教材としても使用している。

とはいえ、教材を十分に活用できていない現状も認識しており、今後はさらに教材活用方法や事例の拡充等を検討し、学生にとって学びやすい授業づくりを行っていきたいと考える。

資料：河原宣子、相羽利昭、伊藤恵美子、飯降聖子、堀妙子、梶谷佳子、鈴木要子、高橋みや子、前原澄子（2009）：「新カリキュラムから生まれた大学4年間を通して学ぶシナリオ教材—京都橘大学「橘薫の一生」の試み」看護教育第50巻第12号、1096～1101.



## 原稿募集

あなたの大学をアピールしてみませんか。以下の原稿を募集しております。

### 募集 1

会員校のユニークな取り組み

学生や教員あるいは地域の人たちを対象としたユニークなプログラム。

### 募集 2

我が校の国際交流プログラム

学生・教員を対象とした海外交流プログラム。

### 募集 3

その他

トピックスや会員校間で共有したいニュース。

いずれの原稿も 2000 字程度（写真 400 字換算を含む）でご執筆いただき、添付ファイル（テキストファイル）を本協会事務局のメールアドレス（[jpnecs@jade.dti.ne.jp](mailto:jpnecs@jade.dti.ne.jp)）にお送りください。いただいた原稿は順次掲載いたしますが、掲載時期については広報担当者に一任下さい。

## 前号（36号）訂正のお知らせ

- P.4 シンポジウム  
座長 筒井先生のお名前  
正) 誤)  
筒井 真優美 ← 筒井 真由美
- P.9 松蔭大学 FAX 番号  
正) 誤)  
046-247-4234 ← 046-247-1514

関係者の皆様にはご迷惑をおかけいたしました。訂正してお詫び申し上げます。

## 編集後記

本号では、日本私立看護系大学協会の活動内容を広く知っていただけるよう事業報告を掲載しております。多くの研修会が行われておりますので、ご活用いただきたいと思ひます。また、加盟校のユニークな取り組み

も引き続き紹介していきたいと思ひます。皆様のご応募をお待ちしております。

北里大学看護学部 島袋香子

### 日本私立看護系大学協会会報 第 37 号

発行者：一般社団法人 日本私立看護系大学協会 <http://www.spcnj.jp/>  
〒102-0074 千代田区九段南 4-6-10 近清堂ビル 6 階  
TEL 03-6261-2071 / FAX 03-6261-2072 E-mail [jpnecs@jade.dti.ne.jp](mailto:jpnecs@jade.dti.ne.jp)  
編集責任者：島袋香子 野口眞弓

### 編集

北里大学  
香取洋子 和智志げみ 及川美穂  
日本赤十字豊田看護大学  
小林尚司 中島佳緒里  
印刷所 新日本印刷株式会社